

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	くさぶえの家	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 ・代表者名 長谷川 忠司 ・住所 川崎市高津区久地3-13-1	評価者	障害計画課長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	生活介護（定員24名）契約者数 29名（平成28年3月31日現在） 自立訓練（定員 6名）契約者数 0名（平成28年3月31日現在）																																							
収支実績	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">収入</th> <th colspan="2">支出</th> <th rowspan="2">収支差額</th> </tr> <tr> <td>福祉事業活動</td> <td>139,335千円</td> <td>福祉事業活動</td> <td>137,807千円</td> </tr> <tr> <td>給付費</td> <td>73,059千円</td> <td>人件費</td> <td>79,000千円</td> <td rowspan="7">0千円</td> </tr> <tr> <td>川崎市独自扶助</td> <td>32,678千円</td> <td>事務費</td> <td>12,033千円</td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料等</td> <td>7,368千円</td> <td>事業費</td> <td>11,067千円</td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>3,417千円</td> <td>拠点区分間繰入金</td> <td>35,707千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>22,813千円</td> <td>施設整備等</td> <td>1,529千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>139,335千円</td> <td>合計</td> <td>139,335千円</td> </tr> <tr> <td colspan="5">※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</td> </tr> </table>	収入		支出		収支差額	福祉事業活動	139,335千円	福祉事業活動	137,807千円	給付費	73,059千円	人件費	79,000千円	0千円	川崎市独自扶助	32,678千円	事務費	12,033千円	指定管理委託料等	7,368千円	事業費	11,067千円	拠点区分間繰入金	3,417千円	拠点区分間繰入金	35,707千円	その他	22,813千円	施設整備等	1,529千円	合計	139,335千円	合計	139,335千円	※端数処理のため合計が一致しないことがあります。				
収入		支出		収支差額																																				
福祉事業活動	139,335千円	福祉事業活動	137,807千円																																					
給付費	73,059千円	人件費	79,000千円	0千円																																				
川崎市独自扶助	32,678千円	事務費	12,033千円																																					
指定管理委託料等	7,368千円	事業費	11,067千円																																					
拠点区分間繰入金	3,417千円	拠点区分間繰入金	35,707千円																																					
その他	22,813千円	施設整備等	1,529千円																																					
合計	139,335千円	合計	139,335千円																																					
※端数処理のため合計が一致しないことがあります。																																								
サービス向上の取組	<p>・個別支援計画に基づき、様々な課題のある自閉症者が地域で自立した生活ができるよう、自閉症専門施設として幅広い支援を行った。自閉症者の症状の特性を「苦手」と捉え、「苦手」の軽減のための「わかりやすさ」を大切に、障害特性に配慮した作業・体操を提供した。</p> <p>・チームとして取り組む年間目標を「施設利用満足度を向上させる」と設定し、利用者の意見・要望を反映した施設運営を行った。27年度は利用者の希望により、グループ納会を開催したり、リクエストメニューを実施したりした。利用者の視線を取り入れたことなどから、10月の施設利用満足度調査の実施においては各項目でそれぞれ高評価であった。</p>																																							

3. 評価（評価段階：5～1,標準：3,加点割合：5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%）

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・自閉症専門施設としての専門技術をもって、利用者の自立生活を目指し多機能型事業を実施。生活介護については、自閉症の障害特性、個別ニーズに配慮したプログラムを提供。作業においては、障害特性に配慮した「始めと終わりがわかりやすい」作業種を提供するとともに、工程の見える化、独自の治具を利用して取り組んでいる。また利用者の自己コントロール力向上につながる体操を行い、集中力・持続力・達成感・コミュニケーション能力の獲得につながるプログラムを提供。 ・定着支援を手厚く行っており、地域の自閉症者や関係者に対しさまざまなフォローアップをすることによって、「卒園しても支援してくれる」という安心感につながっている。週に一度定期面談として施設に利用者が訪れ、また家庭訪問を月二回ほど実施。また「自閉症実践療育講座」や「くさぶえ文庫事業」など関係者や周辺地域に対して、障害特性の知識と理解を周知する事業を実施。「第29回全国自閉症者施設協議会神奈川大会」では主管施設として準備、進行をつとめ、障害者福祉サービスの向上に貢献した。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
	適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか			
(評価の理由) ・法人の定める「契約の手引き」に則り、入札・見積りも合わせを行ったほか、引き続きコスト削減の取組を行った。 ・定員を上回る利用者の受け入れ等により、当初の見込みを上回る収入があり、収支0千円だった。 ・法人の経理規程に則り適正に金銭管理を行った。10月に内部監査を受けたが、重大な指摘事項はなかった。					

サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
	利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4
		利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設満足度の向上を年間目標に掲げ、個別支援計画の作成・サービス提供を行った。結果の分析について、一貫して、利用者の希望を丁寧に聴き取り、障害の特性と個別の状況に応じて1日の流れを決定している。 「失敗」や「不安」が自信の喪失につながりやすいことから、「成功体験」を経験させるよう配慮している。利用者の抜歯施術の際、他利用者の昼食中に車で外出することで対応した。 行事・給食などでは利用者に希望を聞き、実施後は感想を次回開催の参考にするなど、利用者の立場に立った支援を行った。給食に関する意見が多かったため、27年度は毎月リクエストメニューを提供した。 					
組織管理体制	連絡・連携体制	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
		所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	4	4
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	4	4
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	4	4	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内外を問わない研修参加に加えて、外部への講師派遣も積極的に行っている。また末長こども文化センター・わくわくプラザ職員40人を対象とした勉強会を開催し、地域への施設理解と障害理解を広める機会を設けた。さらに「施設合同まつり」や「地域理解の学習」などを通して、地域交流を深めるなどし、広く障害福祉サービスの向上に寄与している。 年六回の災害訓練、「末長こどもセンター」と合同での避難訓練と水消火器の使用訓練などを全員参加で行い、利用者・職員の安全を守るための対策を図っている。 新人職員配属時のチューター制度、専門書籍の利用による人材育成、各種業務マニュアル整備による標準化を図るとともに、昨年度から同僚の対応・取り組みのちよとした良い点を投稿する「グッドジョブボード」を設け、モチベーション向上に努めている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から施設内外の整備に努め、清潔な環境を保っている。毎日の清掃は業者に委託しているが、年末には職員・利用者が大掃除を行った。 				

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A→E,標準: C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

- ・行動障害や重度障害の利用者を積極的に受け入れ蓄積してきた知識と支援技術は、多くの他機関から求められる質の高さとなっており、自閉症療育のパイオニア的立場となっている。また地域の自閉症者や関係者に対して普及啓発や障害特性についてアドバイスを行い、自閉症療育の普及啓発を行うなど、地域の障害者の福祉の向上に多方面から貢献した。
- ・常に利用者丁寧に目を向け、利用者それぞれに応じた柔軟な支援を行っている。また意見箱やアンケートなどの意見を反映し、利用者目線の運営を行っている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- ・「苦手」の軽減という視点に加え、ストレンクス(長所)とかエンパワメント(潜在的に持っている力)を高める支援という視点もより一層意識して支援を行うこと。
- ・施設利用満足度調査の設問に関して、利用者の立場に立った内容への改定とともに、利用者の意見を反映させた施設運営を引き続き行うこと。